

請願 番号	件名	処理の経過および結果
4	<p>1 オーガニック農産物の産地や販路の拡大、省力化に向けた技術開発・研究の一層の推進</p> <p>2 国際水準の有機農業の取組を推進することを目的に、有機JAS制度について指導・助言を行いうる滋賀県下における人材（有機農業指導員）の一層の育成、県内における有機JAS認定検査員の増加・育成に向けての施策</p>	<p>・オーガニック農産物、特に本県の主要農作物であるオーガニック米の販路拡大について、消費者や流通業者を対象に、関係機関と連携した、県統一ブランド「オーガニック近江米」のPRによる消費拡大や、流通事業者等と連携し、首都圏や京阪神での新たな販路開拓に加え、玄米パックライスや米粉などの新商品の提案を進めているところである。</p> <p>・オーガニック米の省力安定生産に向けた取組については、水田除草機の現地実演会や研修会を開催するなど、技術の普及を図っているほか、乗用型水田除草機の導入支援を行っている。</p> <p>・また、試験研究では、省力化を図りつつ、収量・品質の向上が可能となるオーガニック米の栽培技術の実証を行っている。</p> <p>・今後も、オーガニック米の取組拡大に向け、技術支援や流通・販売促進の取組を進めてまいりたい。</p> <p>・有機JAS指導員育成講習会やオーガニック栽培技術講習会の開催等により、県の農業普及指導員を中心に、農業者へオーガニック農業を指導する人材の育成を図っている（令和2年度13名）。</p> <p>・県内に有機JAS認定機関はないが、平成30年度に、有機JAS認証にかかる現地検査員育成研修を開催し、現在、2名の方に検査員となっただいている。</p> <p>・また、「オーガニック」の表示に必要な有機JAS認証には費用がかかることから、認証取得に要する経費の一部の助成を行っている。</p> <p>・今後も、引き続き、これらの取組により、有機JAS制度の指導人材の充実および認証取得の支援を図ってまいりたい。</p>

<p>3 未来の消費者となる子どもたちへのSDGsと食と農のつながりを意識した食育の推進</p>	<p>・平成14年度から、県内小学校において「農からの食育」を推進するため、小学生自らが田んぼや畑で農産物を「育て」、「収穫し」、「食べる」という一貫した体験学習の取組を支援する「たんぼのこ体験事業」を実施しており、令和2年度には201校で行ったところである。</p> <p>また、第3次食育推進計画に基づき、学校給食においては、地場農産物を使用する割合の増加を目的として、学校給食を生きた教材として活用した食育活動に取り組むとともに、地域では、健康推進員など関係団体と連携しながら、子どもたちに地域食材を使った料理や地域の食文化などを伝承する取組を行っている。学校給食における地場農産物を使用する割合は、令和元年度は、令和5年度目標値30%を上回る30.5%となったところである。</p> <p>これらの事業の中で、今後さらに、環境に配慮した地場産物の使用や食品ロスの減量など、環境負荷の低減に関する取組についても促進してまいりたい。</p>
--	--